

後援会だより

札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌 Vol.58

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2022年9月30日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai



援助金贈呈式 猪狩会長(左)と大森学長(右)

最初に行ったのは、令和3年度の事業活動報告。会費の納入状況「後援会だより」の発行を主とする広報活動についてご報告するとともに、保護者の皆様をお招きできなかった令和3年度の総会および役員会の開催についても、ご報告申し上げます。次に支援事業と寄付金に関する実績をレポート。学生の課外活動や奨学金、さらに学外研修や資格の取得奨励に対して補助金を交付した実績と、その支出金額を提示しました。こうした活動に関する監査報告が監事によって行われ、会計の内容や業

●後援会総会
これまでの事業継続とともに、新規事業の展開も！

令和4年度、「後援会総会」を6月4日(土)に開催いたしました。保護者の皆様をお招きしての開催は3年ぶり。万全な感染対策のもと、大勢のご来場を賜りました。また、大学と後援会の共催による「保護者懇談会」も同日に開催。総会では令和3年度事業活動、および令和4年度事業計画をご報告し、保護者懇談会では、ご子女の学びやキャンパスライフについて、直接お伝えする貴重な機会を設けることができました。

〔令和4年度 後援会総会・保護者懇談会〕をレポート。
3年ぶりに、保護者の皆様をお招きして開催！

●保護者懇談会
総会後、SUcocolle(スコール)のプレアホールを会場に保護者懇談会が開催されました。最初に「大学と学生生活全般について」報告があり、続いて「就職状況と、その対策について」、伊藤副学長から説明が

待望の個別面談は、熱心な話し合いに！

務について適正に行われていることが承認されました。続いて令和3年度の事業継続はもちろん、一層の充実を目標に、令和4年度の事業計画(案)を発表。これまでの事業・活動に加え、新たな取り組みとして打ち出したのが、ラーニングコモンズへの支援です。ラーニングコモンズとは、学生が個々の自習やグループ学習の際に、大学施設を利用する場合、図書資料やICT(情報通信技術)を有効活用してもらい、効率的な学習を促すため、人材や設備を整えた総合的な学習環境を指した名称です。学生から多くの要望が寄せられており、後援会ではその整備に支援を決定しました。

こうした事業計画を保護者の皆様からご承認いただき、さっそく執行されたのが、補助金の贈呈式です。猪狩会長から大森学長へ目録が手渡され、「学生の修学、生活、就職に有意義に活用させていただきたく」と謝辞が述べられました。

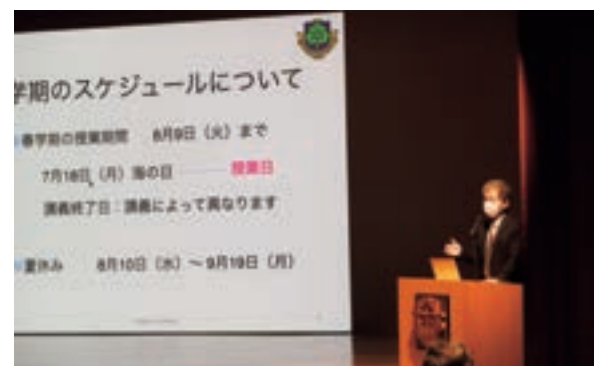


SUcocolle(スコール)プレアホール場内の様子

行われました。なかでも保護者の皆様の関心が高かったのは、就職状況について。令和3年度は感染拡大防止のため、オンライン選考が急増し、今後はこれが主流となっていくことが予想されることから、大学側としても指導を強化していく方針が述べられました。また、多くの最新情報や面接指導、エントリーシートの手書き指南など、就職活動の強い味方となるキャリアサポートセンターの積極的な利用を、保護者の皆様にもお勧めするなど、有意義な説明会となりました。

●参加した保護者の声
プログラムの流れがスムーズで、わかりやすかったです。いち学生の生活実態も大変興味深く、参考になりました。大学の紹介映像を、興味深く見ました。きれいな映像で、学習環境の充実ぶりを確認することができたことは、大きな収穫でした。気になっていたことを、全てお話し、明確に答えていただきましたので、安心できました。これからも、密に連絡をとっていききたいと思えます。大学内での様子を共有することが

入学から就職内定までの学びや、課外活動、さらに日々移ろうリアルな心理状態も飾ることなく語られ、現代の若者が抱く思考や感情を、親世代の皆様が理解を深める、重要な手がかりとなったようです。その後、行われたのが個別面談。用意した各面談室に分かれ、教職員と保護者が対面で話し合う、貴重な機会が設けられました。一人ひとり日頃の学習状況や、生活についてはもちろん、将来のキャリアプランなど、熱心なやり取りがあり、ご子女のキャンパスライフに対する保護者の皆様の関心の高さが伺えました。3年ぶりとなった対面での総会および保護者懇談会の盛況を目にして、来年以降も無事に開催されることを願わずにおれません。



伊藤副学長からの就職状況の説明

でき、前向きなお話もできましたので、有意義な時間になりました。学生の特性をとらえて、ご教授いただけること。また、自分と向き合える、良い大学だと思えました。選んでよかったです。本人にも、今日のことを伝えたいと思います。

●社会に求められる人材の育成を
本日は保護者懇談会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より後援会の活動にご理解・ご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。先ほど後援会の総会を挙行了いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、3年振りに会員の皆様ご出席のもと、開催できましたことを、大変うれしく感じております。総会では、昨年度の決算関係および、今年度の事業計画案をご承認いただいたことを、ご報告申し上げます。保護者懇談会は、教職員がご子女の学びやキャンパスライフについて、皆様と直接お話しする貴重な機会ですので、お聞きになりましたこと、お尋ねください。



個別面談の前に控室で説明を受ける参加者の皆様

札幌大学後援会役員名簿

役職	氏名	担当
会長	猪狩 哲夫	総括・財務
副会長	日浦 和長	事業委員長
〃	伊藤 敏孝	広報委員長
〃	庄子 史人	事業
監事	戸井 敏夫	
〃	岩橋 忠徳	
運営委員	酒井 春樹	事業
〃	上野 洋子	広報
〃	谷口 紀代美	広報

●後援会 猪狩哲夫会長の挨拶
近年は地球温暖化に代表される環境の変化に加え、この度、ロシアによるウクライナ侵攻によって、世の中全体が混乱の度をきわめています。こうした社会情勢のなか、大学の存在意義や、果たすべき役割とは何か考えました。それは、世界の平和と発展に寄与する優秀な人材を送り出すこと。それこそが、これから大学に求められる使命と言えるでしょう。札幌大学でも、中期計画「札幌みらいフロンティア・プラン」を掲げ、大森学長を先頭に具体的な政策を推進し、選ばれ続ける札幌の実現に向け、全力を傾けています。後援会も、それをしっかりと支えるとともに、惜しみない協力・応援を継続していく方針です。会員の皆様にも、ご理解・ご協力を改めてお願い申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。



保護者懇談会で挨拶する猪狩会長

「札大サッカー部」 天皇杯の全国大会に出場し、1回戦突破の快挙！ さらに高いレベルを目指す 選手、監督にインタビュー！

今夏、札大サッカー部が北海道の代表として天皇杯に出場！ 1回戦突破という快挙を成し遂げました。その創部は札大開学と同じ1967年。本年で55周年というメモリアルイヤーに相応しい快進撃について、選手、監督に、強さの秘密を聞きました。

山内 陸さん（キャプテン）
小笠原大将さん（MF）
河端 和哉さん（監督）

目標の天皇杯に出場し、1回戦を突破した勝因はなんですか？

山内 チームとして、背後への積極性や、守備の強化を図ってきました。今年は昨年とあまりメンバーが代わっていないので、より長く時間をかけられた分、チームとしての連携も強化できました。なにより、一人ひとりが与えられた役割に対して責任を持って練習してきた結果だと分析しています。

小笠原 チームが開始するとき、部員みんなミートングを開きました。そこで、全国に出場して1回戦を突破することを目指して、みんなが同じ方向を向いて一丸となつてやってきました。今年、強さの秘密だと思いませんか？

河端 これまで大きな舞台で臆してしまっていたと自信を持っています。さらに、これまで大きな舞台で臆してしまっていた部分がありましたが、経験を積むうちに、本来の実力を発揮することができるようになりました。その背景にあるのは、日頃の練習量だと思えます。練習でできないことは本番でもできません。充分練習をしてきたという自信を持ってピッチに立ちましたので、緊張しませんでした。

河端 これまで私は私やスローガンや目標など、すべて決めてきました。今年からは、選手たちが自主的に目標を掲げ、一つ一つやってきました。それが結果につながりました。



左から 河端監督、小笠原さん、山内キャプテン

全国という大舞台で、試合に臨んだ感想は？

山内 全国のトップクラスと比べると、まだまだ実力不足だと感じます。自信のあった守備ですが、天皇杯の2回戦では、寄せる距離やスピードなど、プロにはまったくプレッシャーをかけることができませんでした。実力差を思い知らされました。

小笠原 結果を見ても、現状では北海道のチームは1回戦突破が精一杯。全国と比較したら、まだまだと実感しています。

今後、学生に求めていきたいことはありますか？

河端 北海道の、まして大学生のチームでは、1日の練習時間が、せいぜい2時間程度と限られています。その限られた時間内に、中身の濃い練習をすることはもちろんですが、それ以外の時間、つまりピッチ外の時間をいかに使うか。その部分は選手自身で考えてほしいですね。大学のサッカー部にとって、本来の目的は人間として成長すること。学生が意識を変えて自分を高めていくところに、人間としての成長があると思います。

今年のスローガンは『進変（しんか）』ですが、変えていくポイントは何ですか？

山内 守備のチームとして試合に臨んできましたが、これからは攻撃面でも強化を図っていききたいですね。

小笠原 今後は一人ひとりのレベルアップが必要だと感じています。そのために、どれだけ高い意識を持って、練習や日常生活を過ごしていくか。そこが問われてくると思います。試合に出場するのは11名ですが、部員全員が意欲的に上を目指し



具体的策として、なにかありますか？

小笠原 自分自身もともと声を出してチームを引っ張っていくタイプではありませんが、3年生になったので、これからは先輩たちの姿勢を見習い、後輩に「一緒に上を目指していこう」と、呼びかけていきたいですね。

河端 成長するには現状維持ではいけません。周囲が進化していくなか、現状維持は退化になります。そこで選手たちが掲げた目標が、「進変（しんか）」です。守備が強いといっても、それはあくまで道内での話。全国大会でプロのチームと当たったとき、彼らの言ったとおり、守備のプレッシャーがまったく通じませんでした。それはこれまで、北海道の大学という基準でチームづくりをしてきたからで、もっと上に行くためには、プロのレベルから逆算してチームづくりを進めていかなければならないと考えています。

レベルアップに向け、今後のように練習していきますか？

山内 私はボランチですが、攻撃型の選手だと思っけています。常にゴールに絡んでいくため、大学での練習も積んでいきます。スパイクでもお世話になって、その地域で練習がなくて、そこで体幹やバランスなどのトレーニングに励んでいます。

小笠原 練習はあくまで試合のためにやるものだと考えていますので、い



左から 浅倉さん、佐々木実行委員長、鈴木さん

有観客は実行委員の発案ですか？

佐々木 委員で話し合いを重ね、人数制限があっても、今年是有観客で開催したいと、一番に推したのには、私でした。それだけに、ぜひ成功させたいという強い意気込みがありました。

浅倉 昨年は

第55回大学祭・第47回文連祭は、3年ぶりの有観客開催！ 実行委員に熱い思いを聞く！！

佐々木颯太さん 法学専攻2年生
鈴木健太郎さん 法学専攻4年生
浅倉 亜未さん 経済学専攻4年生

3年ぶりに有観客となった大学祭・文連祭。開催に向け奔走した実行委員の皆さんに、その感想をお聞きました。

実行委員における皆さんの役割は？

浅倉 普通のサークルでは経験できない活動がしたくて、1年生から参加しています。今年は企画局の副局長を務めました。

鈴木 事務会計・進行局で活動してきました。私は表舞台に立つよりも、資料作成など裏方の仕事をメインに担当しておりました。

佐々木 1年生から入局していますが、先輩からの推薦もあって、今年も委員長の大役を務めました。

果たしましたので、さらに上を目指して頑張りたいですね。
河端 目の前の大会に集中して、一つひとつ納得する結果を残していくこと。それに向かつて、指導する側の私たちも全力でサポートしていくつもりですが、その基本にあるのは、「サッカーを通じて社会に求められる人材を育てること」にほかなりません。選手に人として成長していったほしいというのが、1番の望みです。ですから、我々もそのために努力していいという気持ちです。



開催を、どのように告知しましたか？

鈴木 少しでも外部に発信したかったので、YouTubeやTwitter、InstagramなどSNSをフル活用しました。大学にもホームページに載せてもらい、幅広く発信できた点は良かったです。

今年のテーマ、「SUNRISE」の意義は？

佐々木 新たな一歩を象徴する、日の出をイメージしました。ただ、その周知には反省点がありました。SNSのほかに、大学内に看板やポスターなどを作って、告知しようと考えていましたが、目標の数を達成できませんでした。それは、来年以降の課題だと思っています。

当日の様子はどうでしたか？

浅倉 外部にも注目してほしかったので、オンラインでも参加できる抽選会を企画しました。景品を豪華にしたので、全国の方から視聴していただきました。観客を入れての開催でしたから、自らMCを務め、盛り上げようと頑張りました。ゲストライブも、人気の芸人さんに来ていただいたので、とても楽しいライブになったと思います。

実行委員を務めたことで得たもの、また、そこから後輩に伝えたいことは？

鈴木 あくまでもサークル活動なので、先ずは自分たちが楽しむことですね。資料作成も、前例にとらわれず、改良を重ねていってほしいと思います。

浅倉 来年は後輩の皆さんがアイデアを出し、変えるところは変えていってほしいですね。アドバイスとしては、「人に頼る」こと。周囲と連携するのは、なにより大切なことだと思います。私には人前に出るタイプではありませんでしたが、学生課やイベント会社との交渉、仲間との話し合いを通じて、社交的な人間になったと思います。その経験は就活中の今、とても役立つので、「実行委員を務めた」という実績は、企業に対して大きなセールスポイントになっています。

佐々木 先輩や大学、企業の方からご協力があった、成功した大学祭でした。今後もご協力いただくためには、良い実行委員だと求められる組織でなければなりません。先ずはそこから始めたいと考えています。来年は全面的に復活した大学祭を開催したいと思っておりますので、ご期待ください。





小山 副学長

小山 副学長 「この3つは、本学が追究してきた得意分野であり、より広く、高度に極めていくという考えから立案しました。」

3つのプログラム発案の経緯
小山副学長 「この3つは、本学が追究してきた得意分野であり、より広く、高度に極めていくという考えから立案しました。」

サツダイみらい志向プログラム

変化が加速する現代社会を力強く生き抜くために、現在進行形の知識とスキルを身に付けることを目的としています。どの専攻からでも履修可能な「全専攻横断型プログラム」です。



データサイエンス『魁(さきがけ)』プログラム

データを扱う力を身につけ、実社会の課題を解決できる人材を目指す【科目】データサイエンス、数理・統計学、経営学のカテゴリー

ビジネス創生『食・観光』プログラム

北海道の食・観光による地域振興の現状と課題を把握、分析し、地域社会と共に、地域の魅力向上を創生できる人材を目指す【科目】食・観光、アウトドア、農業・SDGsのカテゴリー

アイヌ文化スペシャリスト養成プログラム『asir(アシリ)』

アイヌ文化を産業として確立することに貢献できる人材を目指す【科目】アイヌ語、アイヌ工芸・演習、アイヌ文化、アイヌ文学、アイヌ史、北海道史、地域・観光、ウレシバ・プログラムのカテゴリー

「未来を変える、君の力に」をキャッチフレーズに、札幌大学は新たに『サツダイみらい志向プログラム』を開講します。その概要を小山 茂副学長に解説いただきました。

『サツダイみらい志向プログラム』の目指すもの！

「2022年度・秋学期開講」

幅広い知識と高度なスキルの養成を目指す、新たな教育プログラム！



小山副学長 「一つの例ですが、秋学期には、体験型観光(アドベンチャーラベル)アウトドア関係の資格取得も可能になっていますね。」

小山副学長 「平取町の二風谷でアイヌ文化を体験し、今話題のサステイナブルな暮らしを学ぶことによって、いかに人を呼び込めるかを考えてもらいます。また、美幌町やむかわ町の取り組みにも参画しており、むかわ町では、鶴川高校と連携して地域活性化を一緒に考えています。そうした高大連携に加え、観光協会や農業団体などにも関わってもらい、若い人の発想でやっていきたいですね。観光振興に留まらず、ビジネスにつなげていくことで、地域の活性化を図る人材の育成を目指しています。」

小山副学長 「テーマの一つに地域振興があります。北海道は観光面からみると、新鮮な海山の幸に恵まれ、美しい自然景観も魅力ですが、それらを上手に発信できていません。また、地方では過疎化が進む一方で、活性化に成功し、人口が増加している自治体もあるわけで、地域振興は北海道の将来を担う鍵となっています。そこで、地域振興に貢献できる人材の養成を目指すのが、本プログラムの特長となっています。」

小山副学長 「テーマの一つに地域振興があります。北海道は観光面からみると、新鮮な海山の幸に恵まれ、美しい自然景観も魅力ですが、それらを上手に発信できていません。また、地方では過疎化が進む一方で、活性化に成功し、人口が増加している自治体もあるわけで、地域振興は北海道の将来を担う鍵となっています。そこで、地域振興に貢献できる人材の養成を目指すのが、本プログラムの特長となっています。」

小山副学長 「一例として、本学と包括連携協定を結んでいるサツポロドラッグストアとコラボし、店内に設置されたカメラにより、データを収集。ユーザーを世代別などに分類し、来店数や来店目的、店内動線、消費傾向などを分析して、課題の解決や販売戦略、サービスの向上に生かしていく研究があります。さまざまな事象から得たデータを、社会のあらゆるシーンで活用していける人材を養成します。」

小山副学長 「私としては、一歩踏み出す学生を育てたいですね。自分のやりたいことを見つけてもらうプログラムですから、勉強を楽しいと感じてもらいたいです。そのため、異世代交流や外部の方にお話ししていただける興味深い機会も用意していますので、大学内だけではなく、社会の知識も取り入れ、個性を育ててほしいと願っています。それが、このプログラムの本質となっています。」

小山副学長 「私としては、一歩踏み出す学生を育てたいですね。自分のやりたいことを見つけてもらうプログラムですから、勉強を楽しいと感じてもらいたいです。そのため、異世代交流や外部の方にお話ししていただける興味深い機会も用意していますので、大学内だけではなく、社会の知識も取り入れ、個性を育ててほしいと願っています。それが、このプログラムの本質となっています。」

小山副学長 「アイヌの刺繍や木彫りなど、伝統工芸を学ぶ機会も設けています。それも単なる体験型ではなく、本格的な技術の習得を目指すものとなっています。」

小山副学長 「アイヌの刺繍や木彫りなど、伝統工芸を学ぶ機会も設けています。それも単なる体験型ではなく、本格的な技術の習得を目指すものとなっています。」

就職支援の強化を進めています

コロナ禍の就職戦線も3年目の後半に入りました。現在、就職課が力を入れているのは、進路決定報告が未提出の卒業年次生への個別支援です。一件一件電話をかけた具体的な活動状況を本人から聞き、個々のペースに合った支援を進めています。この方法は本学就職課の強みとして長年(少なくとも40年以上)継承されています。さらに今年度は、次のとおり3つの強化策に取り組んでいます。

①「キャリアサポートセンターの移転、スペース確保で学生の利便性を向上」。就職課「キャリアサポ」は現在、学生会館Linden Hall West、通称黒リンとして学生に親しまれている生協食堂の2階にあります。学食として活用されるのは昼休み前後の2時間くらい、他の時間はPCを使った求人票の検索、進路相談、企業へ提出する書類の添削を受ける、企業単独のミニセミナーへの参加など、個別ブースとオープンスペースがあるので、一か所で多様な使い方が可能となりました。フロア内には企業説明会やインターンシップなどの掲示板があり、求人・採用情報を学生に共有できる機会が広がりました。

②「キャリア教育の内製化本格始動、授業担当者がキャリアサポに常駐」。キャリア教育科目は、1年生の春学期から4年生の秋学期まで全8科目を展開、特に1年生800人が履修するキャリアデザインIは10クラスに分けサブ講師を含め4名の専門スタッフが授業運営にかかわっています。シラバスも講師も一切外注せず全て本学オリジナルです。毎回学生は授業の振り返りレポートの課題提出に取り組み、回を重ねる毎にグループワークが楽しくなって来た、くじ引きで席を決めるので毎回初めて話すクラスメートがいて友達が増えたなど反応がリアルに伝わり、学生の成長が具体的に把握でき指導も直接出来るようになりました。

③「企業訪問による内定のお礼とつながり復活キャンペーン」。8-9月を求人・インターンシップ情報開拓期間と位置づけ、学内でプロジェクトチームを編成。内定先はもちろん、しばらくご縁をいただけていない企業80社を訪問し、札大生の良さを伝え機会をいただけるよう積極的に各社へ働きかけを行っています。



令和4年3月卒業生の主な就職先

■大学 クワザワ工業/ミサワホーム北海道/つうけん/ホクレン肥料/北燦食品/苫小牧王子紙業/帯広ガス/滝川ガス/KDDIエポック/北海道有線放送/マイナビ/AIRDO/じょうつ/北海道旅客鉄道/日通/NPロジスティクス/北海道日立/大槻食材/栗林商会/ほくやく/ニトリ/イオン北海道/札幌トヨタ自動車/北洋銀行/青森銀行/札幌中央信用組合/土屋ホーム不動産/東急リパブル/常口アトム/東武トップツアーズ/明電エンジニアリング/JA道央/国家一般職/北海道/札幌市/北海道警察/公立学校教員
■短大 丸村アルス産業/ダイキンHVACソリューション北海道/もりもと/ホクレン農業協同組合連合会/TBCグループ/田中学園福祉会/北見カトリック学園

令和3年度の就職の状況

○コロナ禍の採用環境

コロナ禍2年目となった2021(令和3)年度の採用活動は、企業と学生、双方の日常に溶け込んだオンライン化により、以前のような採用スケジュール見直しや一時中断はほとんど見受けられませんでした。企業側は対面では会えなかった新たな学生との出会い、学生にとっては移動時間が短縮できることが定着の一因として挙げられます。数字で表すと、就職情報社の調査では、自ら会場に出向く企業説明会の学生参加数はこの2年間で6.85社から4.36社に減少しました。

学生は小さい頃からデジタルツールに親しみ、自然に使いこなせる世代です。就職相談でも無駄な時間や労力を使わずに自分らしく働ける環

境を探している言動が見受けられます。コロナ禍の就職活動では、学生にとって情報とは、自ら探すものではなく与えられるものと認識する場面が多くなりました。一例として就職ナビによる「お勧め企業」の表示、企業が学生に直接求人を送る「スカウト就活サービス」です。今まで知らなかった企業を知ることができる、また企業を探す時間が短縮できる特徴があります。

○本学の状況

2021(令和3)年度の内定率は、大学92.1%、短大100%と昨年度よりも上回りました。内定者の道内就職率は78.4%、前年度より約4%減少しました。公務員合格者は行政職中心に多く輩出し、学生の頑張りがあった一年でした。毎月集計して

いる内定率は、対前年を上回っている月が多く、企業側の採用意欲の高さを感じられましたが、早期から就職活動に取り組む学生と就職ナビを眺めるだけで一歩踏み出せない学生の二極化も顕著に現れました。与えられた情報が欲しい情報とは限らないようです。

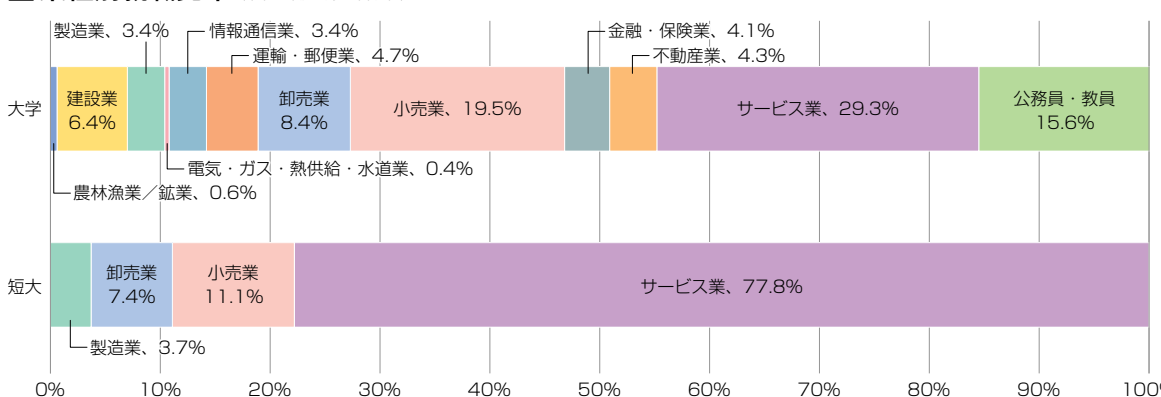
就職課では毎年5月頃から未内定学生への電話による状況調査を中心に学生への指導・助言を行っており、低学年対象の就職講座も秋学期から開講いたします。就職課スタッフは面談を通して、学生一人一人の思いを尊重し、本人が必要とする支援・情報を提供しています。ぜひ、キャリアサポートセンターを活用するようにご案内いただきますようお願いいたします。

(令和4年3月31日現在)

■就職決定状況

Table with 8 columns: University/Short University, Graduates, Job Seekers, Employed, Job Decision Rate, Applicants, Non-Employed, Unknown. Rows for University and Short University.

■業種別就職比率



令和3年度卒業生の就職状況・本年度の現況

令和3年度事業活動及び令和4年度事業計画

令和3年度事業活動

(1) 会費納入状況

- ①第1種会員：3,073人、加入率 97.04%
【大学：3,001人、加入率 97.03% 大学院：4人、加入率 100% 短大：68人、加入率 97.06%】
- ②第2種会員：37人
- ③第3種会員：なし

(2) 補助事業

①課外活動への補助 補助金交付団体及び補助金額は次の一覧のとおり。
(令和4年3月末現在)

交付団体名	大会名	支出金額
スケート部	第15回東日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第94回日本学生氷上競技選手権大会選考競技会	9,000円
	第94回日本学生氷上競技選手権大会 (インカレ)	264,000円
女子サッカー部	第30回全日本女子サッカー選手権大会	252,000円
男子バレーボール部	第74回秩父宮賜杯全日本大学男子選手権大会 ミキブルーンスーパーカレッジバレー2021	126,000円
	第40回全日本女子学生剣道優勝大会	84,000円
剣道部	第55回全日本女子学生剣道選手権大会	27,000円
	第39回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	30,000円
柔道部	令和3年北信越柔道選手権大会	30,000円
	全日本学生優勝大会	117,000円
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	180,000円
	全日本学生柔道体重別選手権大会	117,000円
卓球部	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	24,000円
	第90回全日本大学総合卓球選手権大会	240,000円
	第87回全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部)	156,000円
バトミントン部	第17回全日本学生選抜卓球選手権大会	18,000円
	令和3年度秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第72回全日本学生バドミントン選手権大会	105,000円
	令和3年度第9回文部科学大臣杯争奪 全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会	27,000円
空手道部	令和3年度秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第72回全日本学生バドミントン選手権大会	144,000円
	第65回全日本大学空手道選手権大会	42,000円
ハンドボール部	東日本学生ハンドボール選手権大会	204,000円
陸上競技部	第43回北日本学生陸上競技対校選手権	264,000円
	第90回日本学生陸上競技対校選手権大会	90,000円
チアリーディング部	JAPAN CUP2021チアリーディング日本選手権大会	12,000円
12団体		

課外活動への補助金合計 2,562,000円

- ② 札幌大学奨学金への資金援助6,500,000円
- ③ 札幌大学学外研修援助金2,000,000円
- ④ 札幌大学資格取得等奨励援助金1,000,000円
- ⑤ 入学記念品及び卒業記念品援助金0円
- ⑥ 札幌大学学祭・文連祭への補助金0円
- ⑦ 学生用図書費の援助500,000円
- ⑧ 札幌大学保護者懇談会に係る旅費への補助金637,054円
- ⑨ ほっかいどう若者応援プロジェクト*への補助金200,000円

*札幌大学生協同組合が実施した札幌大学の在学学生を対象とした食糧支援活動。
補助費支出合計 13,399,054円

(3) 寄付金

- ① 札幌大学新棟建設*に伴う寄付金 (令和3年度補正予算)10,000,000円

*令和3年11月に竣工。
寄付金支出合計 10,000,000円

(4) 令和3年度 保護者懇談会実施状況

開催地	会場	開催日
札幌	①札幌大学	(6月) 中止
札幌	②札幌大学	9月19日 (日)
北見	③ホテル黒部 (北見)	9月11日 (土)
旭川	④アートホテル旭川	9月12日 (日)
釧路	⑤ANAクラウンプラザホテル釧路	9月10日 (金)
帯広	⑥ホテルグランテラス帯広	9月9日 (木)
青森	⑦ホテルJALシティ青森	9月4日 (土)
函館	⑧函館国際ホテル	9月5日 (日)
苫小牧	⑨ホテルニュー王子	9月3日 (金)

保護者懇談会では就職をはじめ、さまざまなご質問やご相談にもお応えしております。地方の方は参加しやすい主要都市での開催に是非ともご参加下さい。

(5) 【広報活動について】 「後援会だより」を3月31日付けで年1回発行

(6) 札幌大学後援会総会 (第1回) 日時：令和3年 8月3日 (火) 場所：札幌大学 第1会議室
(第2回) 日時：令和3年12月7日 (火) 場所：札幌大学 第1会議室

(7) 札幌大学後援会役員会 (第1回) 日時：令和3年8月 3日 (火) 場所：札幌大学 第1会議室
(第2回) 日時：令和4年3月22日 (火) 場所：札幌大学 第1会議室

編集後記

台風が去って、道内各地の景色も紅葉づく季節になりましたが、会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

「後援会だより 58号」を発行することができました。今号では、現在の「学び」を中心に、様々な取り組みが行われていることに焦点をあて、会員の皆さまにお伝えすることを主眼とし構成を行いました。

昨今の教育を取り巻く環境も目まぐるしく変化しており、GIGAスクール構想に基づくICT環境の整備においては、令和時代のスタンダードとしての1人1台の端末環境の整備が推進され、パソコン・タブレット・スマホなどのデバイスが、教育には必要不可欠となっていることはご承知のとおりと思います。

そのような中、データサイエンス教育プログラムなどの教育メニューを整え、専攻を問わず学生が学ぶ環境を提供する取り組みについても、ご理解をいただければ幸いです。

一方、まだまだCOVID-19の影響は継続しており、withコロナ下での学びを行うための奨学金制度の充実など、本会としても、引き続き支援を行っているところです。

今後も後援会の視点で大学の情報を発信する際の参考とさせていただきますので、ぜひ皆さまの忌憚のないご意見や感想をお寄せいただければ幸いです。

常日ごろ後援会の手足となり、活動が円滑に進むようにお力を注いで下さっています事務局担当職員の皆様へこの場をお借りしましてお礼を申し上げます。

58号発行にあたり、取材にご協力をいただきました皆さまに感謝を申し上げます。
(広報委員長 I・T)

令和3年度札幌大学後援会決算書

令和3年度収支計算書 (自令和3年4月1日 至令和4年3月31日) 単位：円

科目	予算	決算額	増・減
収入の部			
前年度繰越金	75,370,698	75,370,698	0
第一種会員会費	30,730,000	29,820,000	△910,000
第二種会員会費	120,000	141,000	21,000
第三種会員会費	0	0	0
利息	1,000	798	△202
基金取崩収入	0	0	0
合計	106,221,698	105,332,496	△889,202
支出の部			
基金充当金	0	0	0
補助費	19,825,000	13,399,054	△6,425,946
消耗品費	60,000	32,494	△27,506
旅費交通費	450,000	265,060	△184,940
印刷費	1,200,000	439,340	△760,660
通信費	1,200,000	855,623	△344,377
支払手数料	20,000	9,075	△10,925
会議渉外費	1,820,000	842,269	△977,731
委託管理費	510,000	501,600	△8,400
予備費	80,000	0	△80,000
寄付金	10,000,000	10,000,000	0
備品費	300,000	253,510	△46,490
小計	35,465,000	26,598,025	△8,866,975
当年度収支差額(次年度繰越金)	70,756,698	78,734,471	
合計	106,221,698	105,332,496	△889,202

令和3年度資産(現預金)・基金内訳表 (令和4年3月31日現在) 単位：円

勘定科目	前年度繰越金	3月末	増減
《資産の部》			
現金(事務室保管)	64,040	202,823	138,783
普通預金(北海道銀行西岡)	58,807,437	61,937,430	3,129,993
普通預金(北洋銀行豊平)	16,499,221	16,594,040	94,819
基金(北海道銀行西岡)	21,000,000	21,000,178	178
基金(北洋銀行澄川)	0	0	0
資産合計	96,370,698	99,734,471	3,363,773
《基金の部》			
基金(北海道銀行西岡)	21,000,000	21,000,178	178
基金(北洋銀行澄川)	0	0	0
収支差額(次年度繰越金)	75,370,698	78,734,293	3,363,595
基金合計	96,370,698	99,734,471	3,363,773

令和4年度事業計画

在学生を支援の主たる対象とし、各種支援事業を実施します。

1. 後援会総会の開催

2. 支援事業

(1) 学生の活動に対する支援経費

- ①学生の課外活動への援助(全国大会出場遠征費の一部補助、文化系サークル活動費補助)、
- ②表彰(国際大会、全国大会等で特に優秀な成績を取めた団体・個人等への表彰)、
- ③卒業記念祝賀会に対する援助、
- ④大学院生に対する援助(図書カードの支援)、
- ⑤大学祭、文連祭に対する援助、
- ⑥入学記念品及び卒業記念品に対する援助

(2) 学生のために大学が主体となって実施する事業に対する支援(目録事業)

- ①学生ボランティア対応費への補助【復活】、
- ②学外研修への資金援助、
- ③資格取得・受験対策への資金援助、
- ④札幌大学奨学金への資金援助(返済不要の生活支援奨学金への支援)、
- ⑤ラーニングコモンズへの支援【新規】、
- ⑥学生用図書費の援助(学生が求める図書資料購入の援助)

3. 保護者懇談会の開催(会議費、旅費交通費等の運営経費)

4. 広報活動(「後援会だより」の発行)

令和4年度収支予算

収入の部 単位：円

科目	令和3年度決算	令和4年度予算(案)	増減額(③-④比)	摘要
前年度繰越金	75,370,698	78,734,471	3,363,773	
第1種会員会費	29,820,000	31,280,000	1,460,000	10,000円×3,128人=31,280,000(大学3,091人、大学院3人、短大34人)
第2種会員会費	141,000	120,000	△21,000	3,000円×40口
第3種会員会費	0	0	0	
受取利息	798	1,000	202	
基金取崩収入	0	0	0	
合計	105,332,496	110,135,471	4,802,975	

支出の部 単位：円

科目	令和3年度決算	令和4年度予算額	増減額(決算額比)	摘要
基金充当金	0	0	0	
補助費	13,399,054	19,715,000	6,315,946	学生の活動に対する支援事業(6,015,000円) 学生のために大学が主体となって行う事業に対する支援(13,700,000円)
新棟建設寄附金	10,000,000	0	△10,000,000	2021(令和3)年11月 新棟(SUcole)竣工
消耗品費	32,494	60,000	27,506	事務用消耗品(ファイル等) コピー用紙
旅費交通費	265,060	1,600,000	1,334,940	役員会、保護者懇談会(地方)
印刷費	439,340	1,300,000	860,660	封筒作成 会報作成(後援会だより) 印字 その他印刷
通信費	855,623	1,200,000	344,377	後援会だより発送作業・発送費、会費納入案内 役員会、総会案内・保護者懇談会の案内他
支払手数料	9,075	20,000	10,925	会費納入振込手数料・業者への振込手数料
会議渉外費	842,269	3,520,000	2,677,731	役員会会議費、総会・札幌会場保護者懇談会参加者昼食費、地方会場費 祝儀等
委託管理費	501,600	510,000	8,400	後援会サイトレンタルサーバ月額使用料
備品購入費	253,510	0	△253,510	PC更新
予備費	0	80,000	80,000	
小計	26,598,025	28,005,000	1,406,975	
次年度繰越金	78,734,471	82,130,471		
合計	105,332,496	110,135,471		